キャラクター名	プレイヤー名
シィナ・カークランド(Syna・Carkland)	

種族	エルフ	**種族特徴**	暗視、剣の加護/優しき水		
生まれ	練体師	**性別**	female	**年齢**	14
冒険者Lv	7	**経歴**	大切な人と生き別れている		
			才能を絶賛されたことがある		
経験点	0		師と呼べる人物が居る		

		能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス
技	11	**器用度**	10	2		23 + 1	4
		敏捷度	4	4		19	3
体	5	**筋力**	6	5		16 + 2	3
		生命力	9	1		15	2
心	10	**知力**	9	2		21	3
		精神力	8	1		19	3

技能	Lv.	技能	Lv.
ファイター	7		
フェアリーテイマー	3		
レンジャー	3		
バード	2		

戦闘特技			
タフネス	2122 p		p
武器習熟A/投擲	IB31 p		p
スローイング	IB30 p		p
防具習熟A/非金属鎧	IB31 p		p
命中強化	IB32 p		p
	p		p
	p		p
	p		p
	p		p
	p		p
	p		p

言語	会話	読文
エルフ語	○	○
交易共通語	○	○
神紀文明語		○
妖精語	○	
妖魔語	○	

練技/呪歌/騎芸/賦術	
キャッツアイ	
マッスルベアー	
ビートルスキン	

名誉アイテム	点数
野伏サーマルマント購入	20
耳飾り専用化	50
アンクレット専用化	50

名誉点 所持 180 /合計 300

技能	技能レベル	基本命中力	基本回避力	基本追加ダメージ
ファイター	7	11	10	10
グラップラー	0			
フェンサー	0			
シューター	0			

鎧と盾		ランク	必要筋力	回避力	防護点
鎧	ボーンベスト		16	0	6
盾	カイトシールド		13	1	1
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)					1
回避技能	ファイター		合計値	11	8

武器	用法	必要筋力	命中修正	命中力	C値	追加ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ダークアロー その他メモに詳細	1H	4	0	2d+ 12	10	11	14										
ダークアロー(2H) 2H時投擲不可	2H	4	1	2d+ 13	10	11	19										
ダークアロー(1H投) 射程10m 命中時物理ダメージ+呪い属性魔法ダメージ 遠隔回収時精神抵抗失敗で被ダメージ	1H投	4	1	2d+ 13	10	12	14										

一般装備品	(消耗チェック)
冒険者セット	○□□○□□
着替えセット	○□□○□□
保存食x2	○□□○□□
羊半紙x17	○□□○□□
羽根ペン	○□□○□□
インク	○□□○□□
手鏡	○□□○□□
救命草x15	○□□○□□
魔香草x15	○□□○□□
ヒーリングポーションx20	○□□○□□
	○□□○□□

所持金	預金・借金
4950 G	G

制限移動	通常移動	全力移動
3 m	19 m	57 m

回避	防護点	HP
2d+ 11	8	53

魔物知識/弱点	先制力
2d+ 0/×	2d+ 0

生命抵抗	精神抵抗	MP
2d+ 9	2d+ 10	30

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
妖精魔法	3	6			

	装備品	説明
頭	革の帽子	革製の簡素な帽子。目深に被っている
耳	瑪瑙の耳飾り	母の形見の赤い耳飾り
顔		
首	チョーカー	攫われた時に付けられたもの。外せない
背中	ウェポンホルダー改	武器・盾を2個保持可能。補助動作で入れ替え可能
右手	怪力の腕輪	
腰		
足	銀製アンクレット	父に買ってもらったもの。お守り代わり
その他	ディスプレイサー・ガジェット	装備指定の装飾品を任意の場所につけれる

	装備品	説明
	綺羅星のインパネス	補助動作で<スローイングスター>を生み出す
左手	巧みの指輪	
	野伏のサーマルマント	極限環境でも活動出来るマント。炎、水・氷属性ダメージ-1

その他メモ

オルバ・カークランドの一人娘

--生い立ち--
ザルツ地方北部にある町から近い山の麓でゆったりとした生活を送っていたシィナ。彼女は幼いながら父オルバから狩りの技術を学び、特に投擲に才能を見いだした。また、母から野草などの様々な知識を教えられ、特に野外生活に必要な知識を蓄えていった。
そんな彼女が6歳のとき、突然彼女の生活は崩れ去ってしまう。覆面をかぶった数名の男が家に押し入ってきて家を荒らした挙句、彼女の目の前で母を殺害、シィナは気を失い、そのまま連れさらわれてしまう。
――シィナが目を覚ましたのは馬車の中であった。首にはチョーカーが巻かれ、そこから伸びた縄が両足を縛っていた。
彼女はすぐに状況を理解してしまった。だが大声を上げることを直前で止めれたのは奇跡であろう。シィナは動く馬車の中、振動で近くに動いてきたナイフをすぐ取り出せるところに隠して脱出のタイミングを探った。
――午前3時を過ぎたくらいであろうか。馬車が森のはずれで止まってから早数時間経過し、男たちは見張りを残し寝てしまっている。見張

自動失敗チェック
□□□□⑤
□□□□⑩
□□□□⑮
□□□□⑳
□□□□㉕
□□□□㉚
□□□□㉟